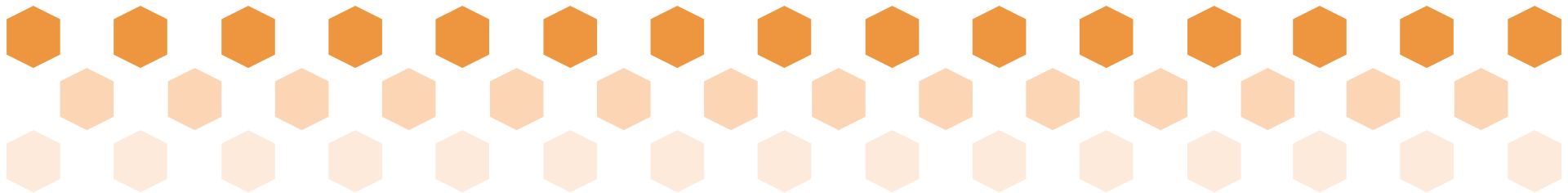


# 産学官連携による食品安全専門人材育成 ~趣旨及び食品安全管理をめぐる動き~

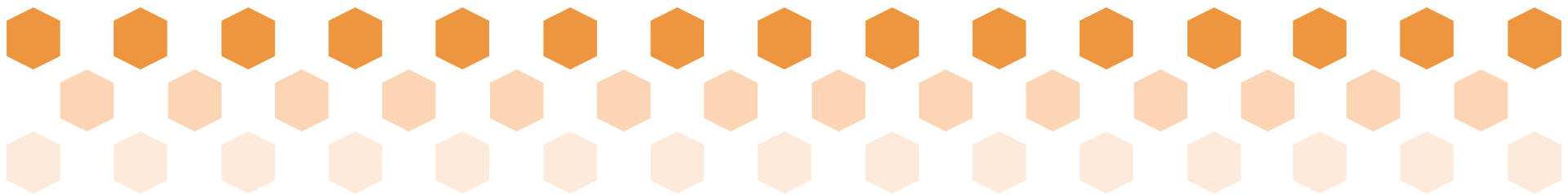


2018年9月28日

食料産業局  
食品企業行動室

農林水産省

# 1. 食品安全管理をめぐる官民連携



# 食料産業をめぐる状況

## <世界の食品取引の現状>

食品事業のグローバル化（国際化）の進展

⇒ 食品安全が世界共通の課題に。

### I. 各国の食品安全規制

・HACCP義務化の流れ

2006年～ EU      2016年～ 米国（食品安全強化法）

※欧米以外にも拡大しつつある。

⇒日本でも、厚生労働省によりHACCPが制度化

### II. 民間取引

・食品安全管理の標準化の流れ

・取引相手の選定において、経験ではなく、科学的アプローチによる基準への適合・認証を求める流れ

# HACCPに沿った衛生管理の制度化

厚生労働省資料

## 【制度の概要】

全ての食品等事業者（食品の製造・加工、調理、販売等）が衛生管理計画を作成

食品衛生上の危害の発生を防止するために  
特に重要な工程を管理するための取組  
（HACCPに基づく衛生管理）

取り扱う食品の特性等に応じた取組  
（HACCPの考え方を取り入れた衛生管理）

対EU・対米国等輸出対応  
（HACCP+α）

HACCPに基づく衛生管理（ソフトの基準）に加え、輸入国が求める施設基準や追加的な要件（微生物検査や残留動物薬モニタリングの実施等）に合致する必要がある。

コーデックスのHACCP7原則に基づき、食品等事業者自らが、使用する原材料や製造方法等に応じ、計画を作成し、管理を行う。

【対象事業者】

- ◆ 事業者の規模等を考慮
- ◆ と畜場 [と畜場設置者、と畜場管理者、と畜業者]
- ◆ 食鳥処理場 [食鳥処理業者（認定小規模食鳥処理業者を除く。）]

各業界団体が作成する手引書を参考に、簡略化されたアプローチによる衛生管理を行う。

【対象事業者】

- ◆ 小規模事業者（\*事業所の従業員数を基準に、関係者の意見を聴き、今後、検討）
- ◆ 当該店舗での小売販売のみを目的とした製造・加工・調理事業者（例：菓子の製造販売、食肉の販売、魚介類の販売、豆腐の製造販売等）
- ◆ 提供する食品の種類が多く、変更頻度が頻繁な業種（例：飲食店、給食施設、そうざいの製造、弁当の製造等）
- ◆ 一般衛生管理の対応で管理が可能な業種等（例：包装食品の販売、食品の保管、食品の運搬等）

※ 取り扱う食品の特性等に応じた取組（HACCPの考え方を取り入れた衛生管理）の対象であっても、希望する事業者は、段階的に、食品衛生上の危害の発生を防止するために特に重要な工程を管理するための取組（HACCPに基づく衛生管理）、さらに対EU・対米国輸出等に向けた衛生管理へとステップアップしていくことが可能。

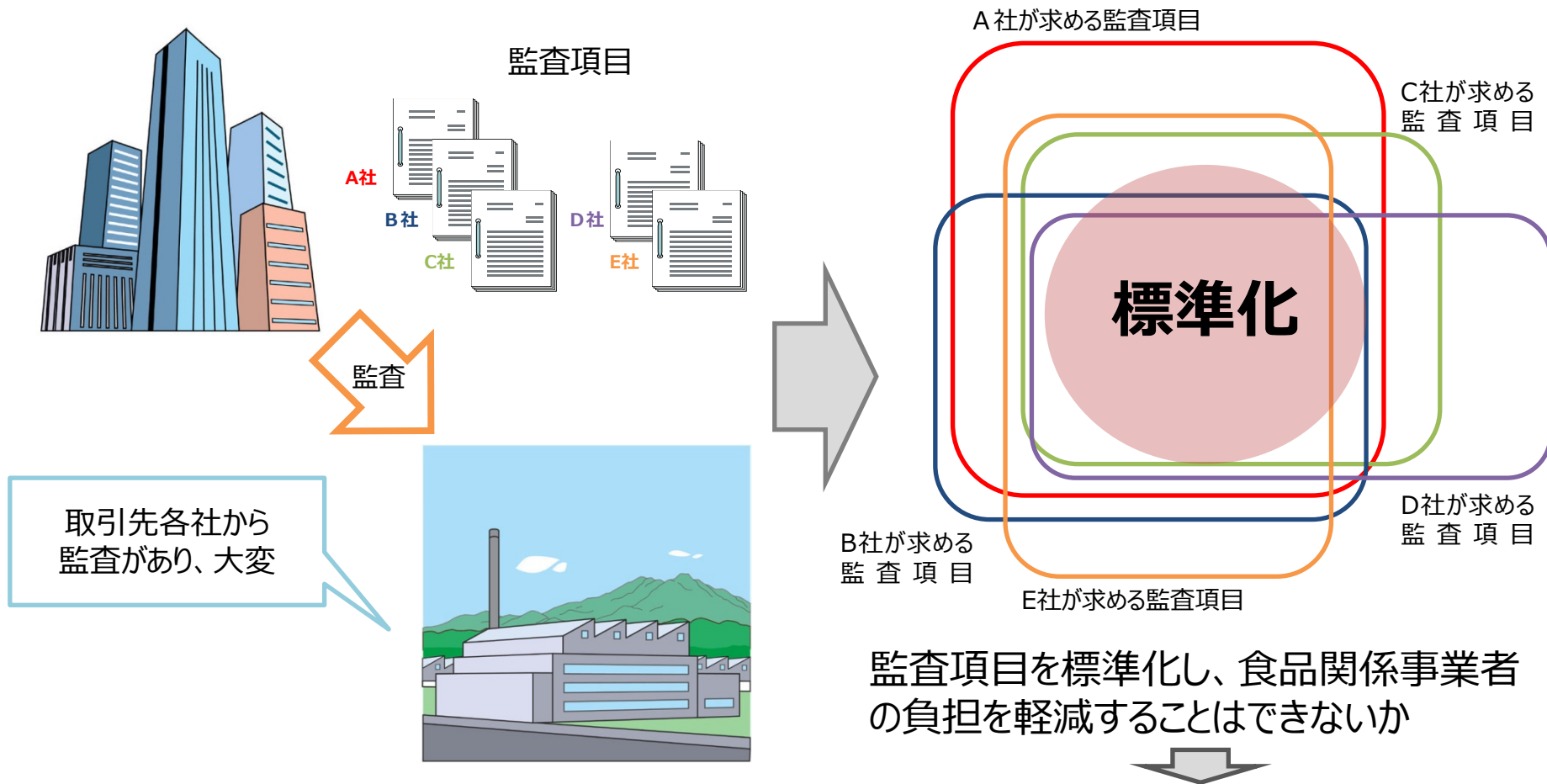
※ 今回の制度化において認証の取得は不要。

## 【国と地方自治体の対応】

- ① これまで地方自治体の条例に委ねられていた衛生管理の基準を法令に規定することで、地方自治体による運用を平準化
- ② 地方自治体職員を対象としたHACCP指導者養成研修を実施し、食品衛生監視員の指導方法を平準化
- ③ 日本発の民間認証JFS（食品安全マネジメント規格）や国際的な民間認証FSSC22000等の基準と整合化
- ④ 業界団体が作成した手引書の内容を踏まえ、監視指導の内容を平準化
- ⑤ 事業者が作成した衛生管理計画や記録の確認を通じて、自主的な衛生管理の取組状況を検証するなど立入検査を効率化

# 工場監査の課題

取引先により、工場監査項目が異なり、食品関係事業者の監査対応のための時間及びコストが増大。



# GFSI (Global Food Safety Initiative) の概要

## GFSI : Global Food Safety Initiative (世界食品安全イニシアティブ)

2000年に、世界的に展開する食品事業者（世界70カ国、約400社）が集まり、食品安全の向上と消費者の信頼強化のため、自分達の求める規格・認証スキームの承認等を行う機関。

### 設立の背景

- ◆ 食品事故の多発
- ◆ 原料の調達・加工・生産のグローバル化
- ◆ 監査コストの増大
- ◆ 食品安全スキームの多様化

**食品安全のグローバル規格の必要性を共有**

- 目標
- 食品安全性の向上
  - 消費者の信頼
  - コスト削減

2000年5月 GFSI発足

### ビジョン、ミッション、目的

ビジョン

すべての消費者に安全な食品を

ミッション

世界中の消費者の信頼を得るため、食品安全での継続的改善を推し進める

目的

- ・食品安全リスクの低減
- ・コストの最適化
- ・能力開発・力量向上
- ・知識の交流ネットワーキング

### ボードメンバー (20名)

Chair

- ・カーギル Mike Robach氏

Vice-Chairs

- ・アホールド Anita Scholete op Reimer氏
- ・ウエグマンズ Gillian Kelleher氏

Member

- ココーラ ● ネスレ ● カルフル
- モンデリーズ ● マクドナルド
- ウォルマート ● タイソン
- 中糧集団有限公司
- テスコ ● イオン ● ダノン
- ドール ● アマゾン ● オシャン
- メトロ ● コストコ
- 新希望六和股份有限公司

# GFSIの食品安全認証スキームの承認の仕組み

食品安全マネジメントシステム間で等価性を図り、収束することにより、  
食品安全リスクを軽減するとともに、コストを最適化する。

## GFSI

GFSIベンチマーキング要求事項



### [ 審査事項 ]

- 1. 組織への要求事項
  - (1) 食品安全マネジメント
  - (2) 適正製造規範 (GMP)
  - (3) HACCP
  
- 2. 認証の仕組みへの要求事項  
(認証の信頼性を高める仕組み)

## 1. と 2. の両方を承認

※ 括弧内は本部のある場所

- FSSC22000 (蘭)
- SQF (米)
- IFS (独)
- GRMS (デンマーク)
- BRC (英)
- CanadaGAP (加)
- GLOBALG.A.P. (独)
- Global Aquaculture Alliance (米)
- PrimusGFS (米)

## 1. のみ承認

(政府認証規格技術的等価承認)

- China HACCP (中)
- USDA AMS Gap + (米)
- CGC HACCP and CIPRS+ HACCP (加)



# GFSI世界食品安全会議2018

- 日時・場所：2018年3月5日（月）～3月8日（木） グランドニッコー東京 台場
- 会議概要：全世界から食品関係事業者・専門家・政府関係者が集まり、食品安全に係る様々なプレゼンテーション、ネットワーキングを行う会議。今回で17回目。**GFSI世界食品安全会議として初めて日本で開催。**52か国から約1,200名（過去最多数の参加者）
- 日本からの参加者：約200社・団体から約500名
- パートナー・スポンサー：ヤマトホールディングス、ダノン、カーギル、グリーンフェンス、エコラボ、ビューローベリタス、レントキル・イニシャル、DNV.GL、SAIグローバル、SGS など
- 会議の意義：現在、日本発の規格（ASIAGAPとJFS）がGFSIへ承認申請中。承認に向けて、GFSI理事や世界各国の関係者に対し日本が食品安全分野で深く関わっていくことを示す機会。
- 主なテーマ：**a) 食品安全に係る官民連携、b) IT、ビックデータ、ブロックチェーン等新たなテクノロジーを活用したトレーサビリティ等の安全管理、c) 食品安全文化形成、人材育成**





# 民間企業のGFSIに係る動き

## WALMART

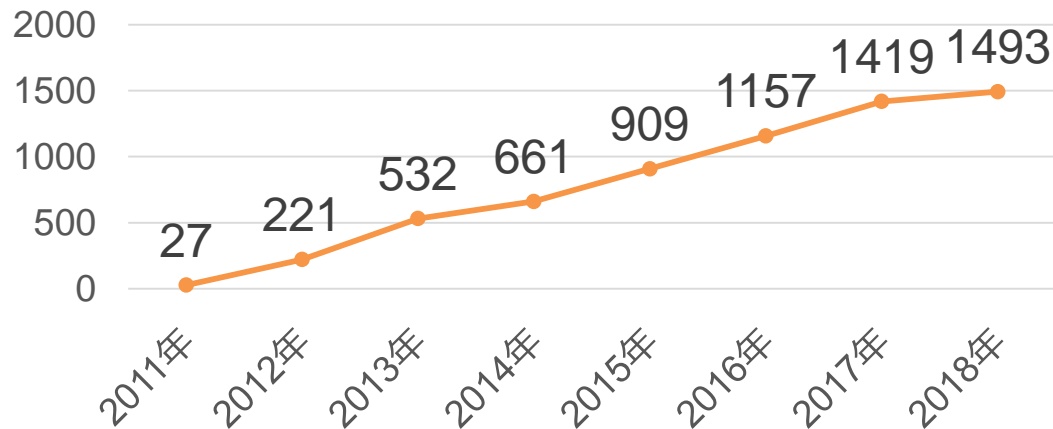
ウォルマートは「Walmart Private Brand Supplier Expectation 2016」において、全てのプライベートブランドのサプライヤーにGFSIの承認規格の認証取得もしくはGFSIグローバル・マーケットプログラムへの取組を要求している。

## イオン株式会社

2017年4月にイオン株式会社が「イオン持続可能な調達方針」、「持続可能な調達2020年目標」の策定をプレスリリース。イオン株式会社は、「持続可能な調達2020年目標」として以下の目標などを設定。

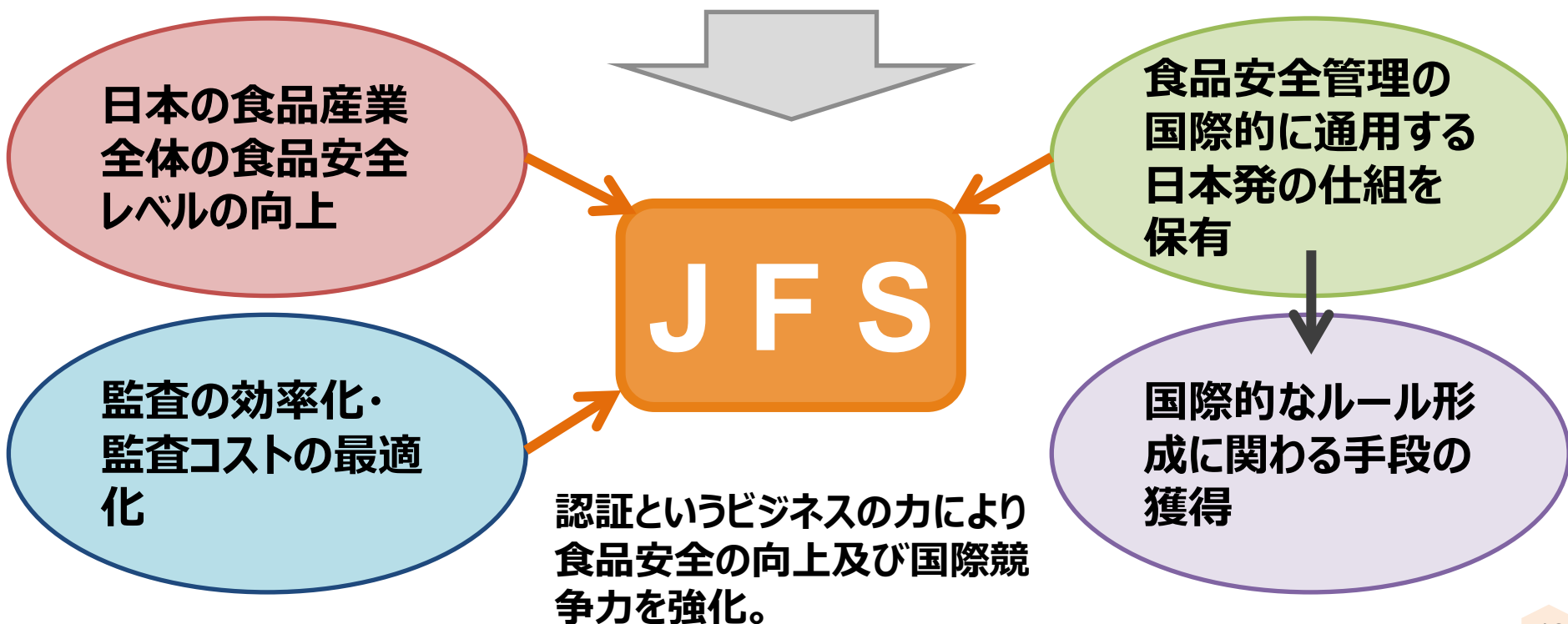
- 農産物について、プライベートブランドは、GFSIベースの適正農業規範（GAP）管理の100%実施をめざす
- 畜産物について、プライベートブランドは、GFSIベースの食品安全マネジメントシステム（FSMS）または、適正農業規範（GAP）による管理の100%実施をめざす

## 日本におけるFSSC22000認証数の推移



# JFS構築の意義

- ① HACCPの普及・実施に当たっては、認証が有効な手段となるが、中小事業者にも使いやすい国内で統一的な認証の仕組みがない。
- ② 各取引先からの監査の重複があり、食品事業者の負担に。
- ③ 国際的に通用する日本の食品安全管理規格がなく、日本の食品産業の食品安全に関する国際的なルールメイキングに参画できない。



# 一般財団法人 食品安全マネジメント協会 (JFSM) について

Japan Food Safety  
Management Association  
: **JFSM**

## 【ミッション】

フードチェーンを通じた食品安全及び信頼確保の取組向上と標準化によるコストの最適化を目的として、

- ① 規格、ガイドライン等の作成と認証の運営
- ② 食品業界内の人材育成
- ③ 情報収集と発信

## 【役割】

**JFSM**

フードチェーン全体で実施

- 規格・認証スキームの構築
- 業界内での取組向上  
人材育成 (国際標準のルールメイキングに参画)
- GFSI承認  
海外との調和  
海外への情報発信

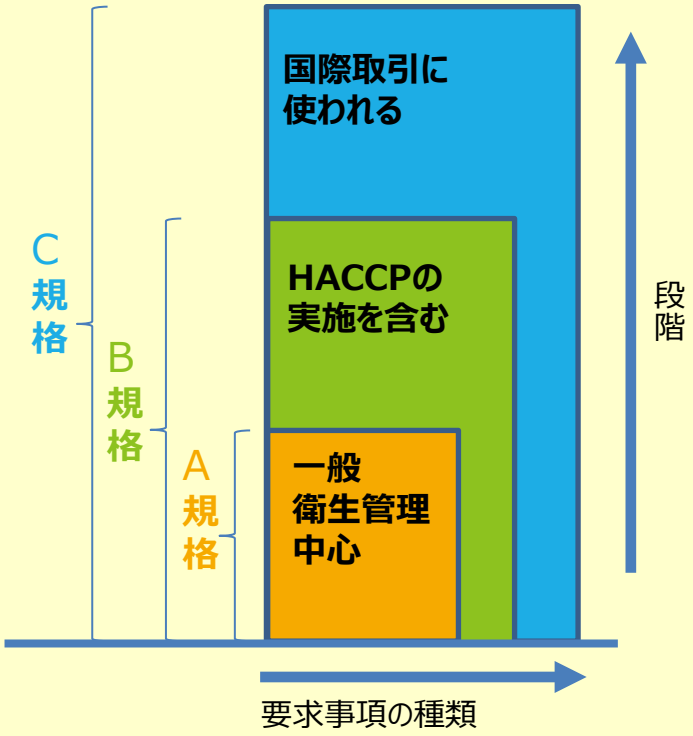
## これまでの経緯

- 平成28年1月  
JFSM設立
- 平成28年7月  
JFS-C (製造セクター) 運用開始
- 平成28年10月  
JFS-A/B (製造セクター) 運用開始
- 平成29年4月  
JFS-C (化学物質製造セクター) 運用開始
- 平成29年7月  
JFS-A/B (化学物質製造セクター) 運用開始
- 平成29年9月  
JFS-C規格・認証スキーム (カテゴリ: EIV) のGFSI承認申請

# 日本発食品安全管理規格（JFS規格）・認証スキームの特徴

○ 中小事業者にとっても取り組みやすい段階的な仕組み

- 日本の企業文化、食文化になじみやすい
- 日本の事業者に分かりやすい
- 国内の規制と国際的なスキームとの整合



**国際標準と共通する部分**

- 組織に対する要求事項
  - 1. マネジメント・システム**  
経営トップの関与、組織体制、P D C Aサイクル など
  - 2. HACCP**  
危害要因分析をして、重要管理点を定め、管理して記録をとるシステム
  - 3. 適正製造規範（一般衛生管理）**  
手洗い、清掃、微生物・異物混入対策、原材料管理 など
- 認証の仕組みに対する要求事項

**日本発の特徴**

現場や食文化に即したガイドラインの整備

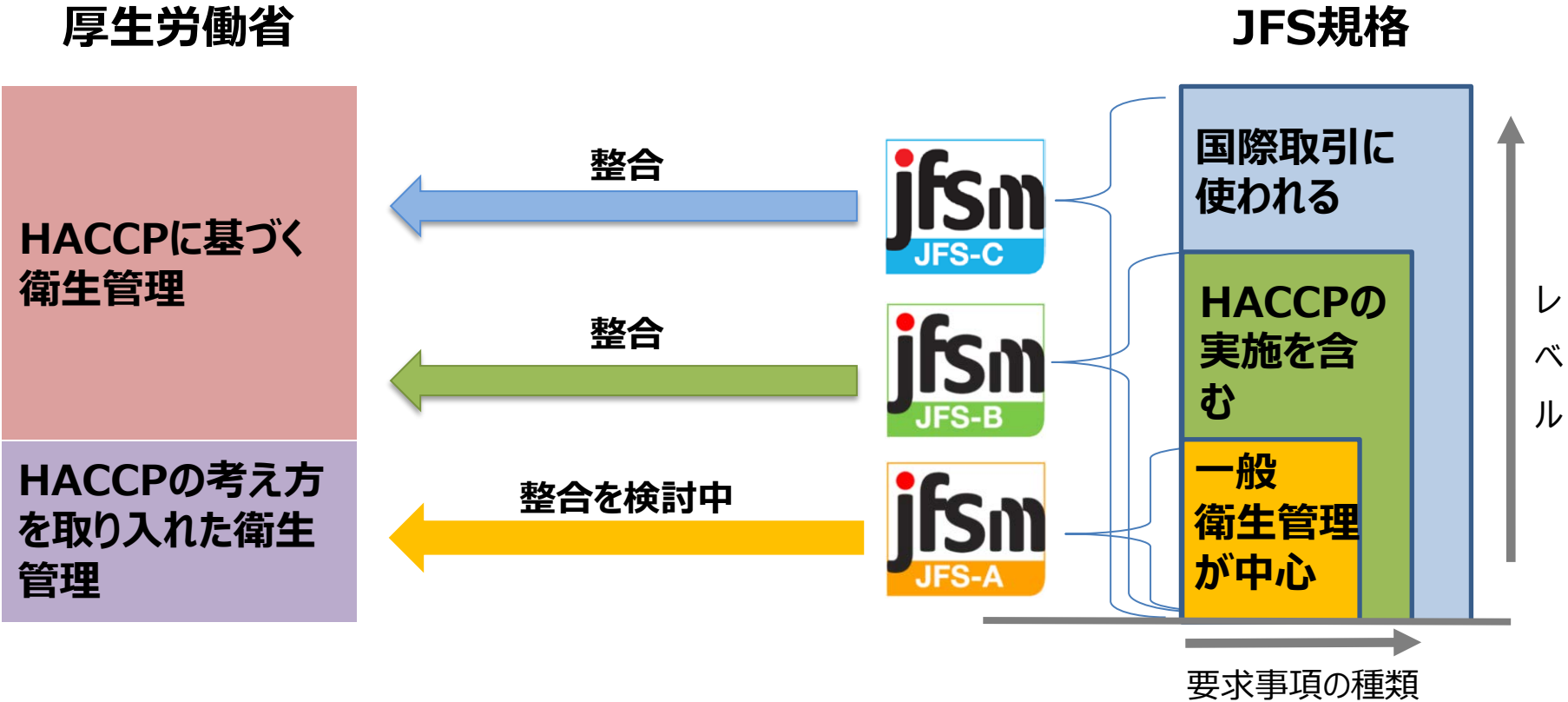
- ・規格を分かりやすく解説
- ・生食・発酵食品を含めた日本の独特な食品等の安全な取扱方法を、科学的根拠をベースとして説明。  
(例：惣菜の管理、味噌の管理等)

・現場からの改善提案を活用する仕組みがあること

# 厚生労働省HACCP基準案とJFS規格との整合性

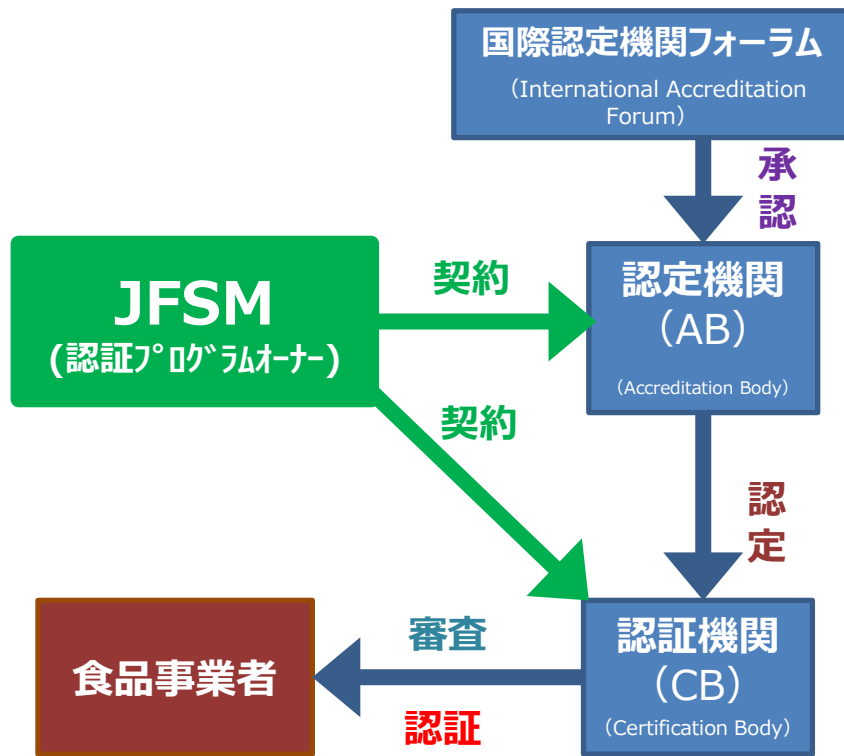
B規格、C規格で要求するHACCPはコーデックスHACCPの要求事項と同じ内容を採用。B規格、C規格は、厚生労働省のHACCP制度化における「HACCPに基づく衛生管理」の基準を包含している。

また、A規格についても厚生労働省の基準に整合するよう検討しているところ。

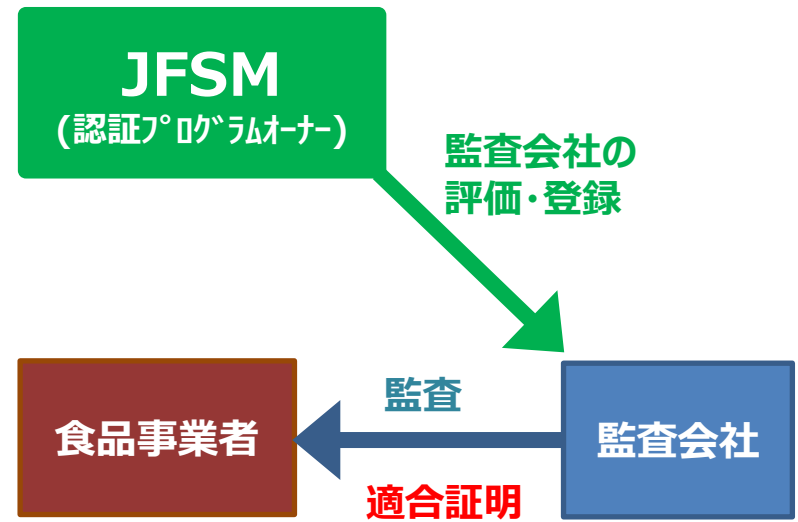


# JFS規格の認証等の仕組み

## JFS-Cの認証の仕組み



## JFS-A/Bの適合性確認の仕組み



# JFS規格の認証等の実績 (2018年9月25日現在)

## JFS-Cの認証

- 契約認定機関 (1機関) :
  - (公財)日本適合性認定協会
- 契約認証機関 (10機関) :
  - (一財)日本ガス機器検査協会 JIA-QAセンター
  - 日本検査キューエイ(株)
  - 日本海事検定キューエイ(株)
  - (一社)日本能率協会審査登録センター
  - (株)日本環境認証機構
  - (一財)日本規格協会 審査登録事業部
  - テュフズードジャパン(株)
  - オーデイス(株)
  - (一財)日本品質保証機構 マネジメントシステム部門
  - DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン(株)
- 認証件数 (49件) :
  - E I 8件
  - E II 3件
  - E III 8件
  - E IV 29件
  - L 1件

## JFS-A/Bの適合証明

- 契約監査機関 (16機関) :
  - エコア(株)
  - (一社)中部産業連盟
  - (株)レジェンド・アプリケーションズ
  - HACCP認証(株)
  - (株)BMLフード・サイエンス
  - 生活協同組合コープさっぽろ
  - (一財)東京顕微鏡院 食と環境の科学センター
  - (株)シー・アイ・シー
  - (株)キュー・アンド・シー
  - (株)ファスマック
  - (株)町田予防衛生研究所
  - エフェクティブ・ナビ株式会社
  - イカリ消毒(株)
  - OMIサーチ&コンサルティング(株)
  - 東京サラヤ(株)
  - SOMPOリスクアマネジメント(株)
- 適合性確認件数 (74件) :
  - E I 12件
  - E II 15件
  - E III 16件
  - E IV 31件
  - L 0件